

令和 7 年 6 月 17 日（火） 北野高校 学校運営協議会

令和 7 年度 第 1 回北野高等学校運営協議会議事録

1. 日時 令和 7 年 6 月 17 日（火） 14:30～15:30

2. 場所 校長室

3. 出席者 【委員】

（PTA 会長）

（大阪大学量子情報量子生命研究センター特任教授）

（京大大学大学院教授）

（六稜同窓会事務局長）

（六稜同窓会学年理事）

（大阪市立新北野中学校 校長）

【事務局】

（校長）

（教頭）

（事務長）

（首席）

（首席）

（教務部主任）

（進路部主任）

（指導部主任）

（記録）

（記録）

4. 議事次第

（ア）校長挨拶

（イ）授業見学後の意見交流

（ウ）校長から学校経営計画・高校入試について

（エ）今年度の取り組み

（オ）質疑応答

5. 議事の経過（敬称略）

（ア）校長挨拶

本年度の目標として、生徒たちを全国の舞台に連れて行って全国の優秀な高校生と交流する機会を持たせたい。

（イ）授業見学後の意見交流

阪大特任教授 日本史プロジェクターを使った授業、うまく使っていた 英語もうまく使

っていたディベートディスカッションの授業興味深かった。

校長 英語の授業ではオールイングリッシュが多い

外部テストで1年の中で満点の者もいる GL10校の中でも優れている

京大教授 授業に工夫を感じた効果的に生徒に伝える仕組みになっている 情報の授業内容が共通テストでも出てくるので対策が必要

同窓会事務局長 授業を生徒が楽しそうに受けていた 情報の基礎内容が数年先には変化している幼いころからのデジタルネイティブに対する指導は先生方は大変だと思う

PTA 会長 授業が楽しそうで生徒の満足感が高いと思う 英語の授業で生徒は積極的に発言していた

同窓会理事 電子黒板をうまく活用した授業が印象的 生徒の声もよく出ていたと思う 情報の内容は自分が大学で学んだような内容であった

新北野中校長 生徒はみな積極的に授業を受けていた 授業に取り組む姿勢は中学に戻ってから生徒に伝えたい

・情報の授業は課題が残る。授業について行けない生徒をどう支援するか。定着にも時間がかかりそう。また、扱える（素地がある）が、理論が分からない生徒が多いように見える。大学で扱うため、高校段階で定着させることは必要。（阪大特任教授・京大教授・PTA 会長・同窓会理事）

（ウ）校長から学校経営計画・高校入試について

【校長】

（学校経営計画）

- ・大枠は昨年とほとんど同じ。
- ・重点的に取り組みたいことは、生徒たちに外の世界を体験させること。首都圏の私学中高一貫校の生徒は5年かけて模擬国連に取り組んでいる、北野生は2年間しか時間がない中で先輩から後輩への伝承が大切である。継続・積み上げが大切なので、先輩の姿を見て、目標を持ってほしい。

（高校入試 特別枠）

- ・10年度選抜に向けて特別枠を設けなければいけない。（合格者の10%）入試の学校特別枠については9月に中学生にオープンにする
- ・公立の特色づくりのためにできた制度。
- ・北野高校の場合、国数英の入試の点数に重点を置く予定。
- ・英検の資格を持っていなくても、英語の力がある生徒は通したい。
- ・GL10校として特別枠の扱いについては悩ましいところもある。10校の校長とも話しながら、方針を固めていく。

（エ）今年度の取り組み

【生徒指導部】

- ・3年生は大体のクラブが引退。勉強に向かっていく時期。休み時間や放課後に運動場で遊んでいる生徒もいる。3年生は去年の今頃より遅刻数が減り、前向きに取り組んでいる。
- ・2年生は学校を中心に、多忙になっている。がむしゃらに頑張っていた子が立ち止まる時期であり、少数ではあるが出席しにくい生徒が出てきた。メンタルの影響もあると思うので心身ともにケアをしていきたい。S Cとも協力して聞き取りしていく。
- ・1年生は元気。行事に向かう姿勢も前向き。
- ・出席状況としては、例年2年生の出席率が下がる。今年の3年生は頑張っている。教員からは前向きな声かけをし、楽しい学校生活を支援したい。

【教務部】

- ・教科書の採択をする時期。教科が教科書を決めて、教科主任間で情報を共有する。問題がなければ次の会で報告。府への報告は8月くらい。
- ・最も話題になっていたのは、デジタル化と働き方改革。高校入試がデジタル採点・出願。他の所でもI C T化が進んでいる。デジタル採点は割合に問題がなく、順調。
- ・課題は、業者が変わったり、システムが変わったりすると、引き継ぎが難しいこと。

【進路部】

- ・137期生、京大の現役が72名、既卒生併せて100名を超えた。
- ・卒業生は英語がよくできていた。
- ・7月の模試では過去の学年と比べても段違いといえる成果であった
- ・共通テストも8割以上取れて、第一志望にそのまま出願できた子が多数。
- ・スタディサポートは例年と同じ動き。校内模試、理系は例年通り、文系は分散が高い。
- ・現段階の進路希望の人数。進路希望調査東大24 京大167 阪大98 神戸21 医学部23名。大きな変化はないが、医学科は少し減っている。その分京大と東大が増えた。
- ・今年度では京都大学で女子枠ができた。

【質疑・応答】

- ・学力や進路にとらわれず広い視野で生きていってほしい、水泳・断郊・縄跳びなど体験的な取り組みを大切にしてもらいたい。今年度の1年生がおこなった大阪を学ぶ取り組みは本当に良いものだと思う。(同窓会事務局長)
- ・進路について、受験校が集中することで多様性が失われるのではないか。(阪大特任教授)
→学区がなくなったから、学力の高い子が北野に集まってきている。北野の生徒は進学だけを目的にしていない。(校長)
- 色々な人生があるよ、ということを示してあげることが必要だと思う(阪大特任教授)
- 幅広い考え方があるという方向性に特別枠を使えたらいいと思った。(同窓会事務局長)
- 北野は学力以外の面も上手く伸ばしている。学力だけではまずい。(阪大特任教授)
- ・英語の成績が良かった要因は何か。(京大教授)
→入学時の学力が高かった可能性がある。授業ではリスニングで聞いたことを記述させて

いる。入ってきた情報を要約してアウトプットする流れで4技能の向上につながったのではないかと思う。4技能どれに於いても、生徒の能力より少し高度な活動をしたいと思っている。(教務部主任)

・チャット GTP 等がはびこっているが、その影響はあるか。(京大教授)

→ネットで検索するとき、A I の解答が変だと気づけたらいいが、無理だと難しい。(首席)

→北野生は、AI を使っても自分の力でできなければ結局どこかで困るという感覚がある。

(校長)

・高校入試における特色枠について

→客観性が心配(阪大特任教授)

→客観的に判断できる材料がなければ合格させるのは難しい。説明責任が果たせるように留意している。(校長)

4. その他

学校への意見書の提出はなし

次回は12月ごろに開催予定